

汚泥肥料中の PFOS 及び PF0A について
(「現時点での考え方」に係る補足説明資料)

1. 汚泥肥料を施用したほ場で生産した農作物を継続的に摂取した場合の PFOS・PF0A 摂取量

- 今回得られた分析結果のうち最も高い濃度を示した汚泥肥料 (PF0A : 250 $\mu\text{g}/\text{kg}$) と同じ濃度の汚泥肥料を、毎年施用し続けるものとする。
- 施用した汚泥肥料は、土壌と混合されるものとする。
- 土壌中の物質は、通常、降雨等の影響を受けて一定量が溶脱するが、土壌中の PFOS・PF0A は全く溶脱せずに留まるものとする。
- 農作物中の PFOS・PF0A 濃度は土壌中の濃度と同じになるものとする。
- 摂取する農作物は、摂取量が多い葉物野菜とし、最高濃度の汚泥肥料を連用したほ場のみで生産された葉物野菜を摂取し続けるものとする。

これらの仮定のもと、考え方を示した。

2. 耐容一日摂取量

- 食品安全委員会が設定した耐容一日摂取量 (PFOS・PF0A それぞれ 20 ng/kg 体重/日) とする。